

岡崎嘉平太記念館



だより

Vol. 8

2008.1

嘉平太氏が出会った人々

美土路昌一氏みどろますいち▼明治一九〇
昭和四八年、岡山県出身。
早大中退後、東京朝日新聞
に入社、昭和三九年から同
四二年まで社長を務めた。
同二七年日本ヘリコプター
輸送(株)創設、同三六年一
月まで社長を務めた。岡崎
氏は美土路氏に請われ副社
長で経営参画、同三六年よ
り社長を務めた。



写真は日本ヘリコプター輸送
(全日空の前身) 設立当時の
幹部▼前列左から三人目が
岡崎氏、右隣が美土路氏。
明治神宮にて。

— 美土路昌一先生 —

私は学生時代の終わり頃、郷土の大先輩小松原栄太郎先生の伝記編纂を手伝って、犬養木堂先生に度々お目にかかったことがあるが、美土路先生との初対面で、犬養先生そっくりだなと感じた。小柄なところも似ていられるが、その若い者に対する応待が主客長幼の差を感じさせない、引き入れられるような話し振りで、大変感じ入って爾来亡くなられるまで師事して来たのである。

それからしばらくして先生を中心にして時局を談ずる会合を持つようになった。同県出身の軍、官、民の若手が二十人ばかり、毎月一回ぐらい集まった。いつとはなしに無名会と呼ぶようになった。第一次世界大戦から、昭和二、三年（一九二七、一九二八年）の金融恐慌、物価下落、テロ流行、満州事変、軍閥の急台頭、国際連盟脱退、日中衝突などの激動期の中で、われわれ若い者が縦横に議論しつつ、先生の指導を受けたことは、私の時局を見る眼を大きく開いてくれた。（中略）日ペリ、全日空を通じて、先生とともにいる時は、文字通り、春風に坐す、といった感じであった。先生は部下の功を奪われぬというより、ご自身の功をすべて部下に与えられるのであった。困難な仕事を命ぜられると、こっそり根回しをしておいて、成功すると知らん顔をして、よくやってくれた、君でなくては出来ないことだ、などと賞められる。あとで先生の根回しされたことを知ったとき、誰も穴にも入りたくない気持ちになるが、いよいよ先生の有難さを知るのであった。

先生はまた、どんな大事件が起きてても、顔色一つ変えられることはなかった。泰然として、適切な指示をされた。先生はまた囲碁を嗜まれていた。そのせいか、仕事でも先の先をよく読んでおられた。私達が何であんなことを言われたのかと怪しんでいると、後でハハーと得心させられることが度々あった。

岡崎嘉平太著『私の記録』（東方書店一九七九年発行）より

主な催しのご紹介

岡崎嘉平太記念館 特別講演会

日中友好のかけ橋 岡崎嘉平太 -NHKスペシャル制作について聞く-

11月10日(土)開催

演題「テレビ制作を通して見た岡崎嘉平太氏」



会場の様子 (場所:吉備高原リゾートホテル)
大きなスクリーンには映像が映し出された



NHK ロケ風景 (場所:岡崎嘉平太記念館内)
左から国井アナウンサー、下田氏(平成19年2月)



講師・下田氏

平成19年3月、NHKスペシャル「ラストメッセージ 命をかけた日中友好 岡崎嘉平太」が放映されました。この番組は、1年以上にわたる綿密な取材で、日中国交正常化に向け活躍した岡崎氏の功績や当時の情勢などもわかりやすく制作されており、大きな反響がありました。そこで、制作チーフ・プロデューサーの下田大樹氏に講演していただいたところ、120名を超える方に聴講していただきました。

下田氏は、映像を交えて企画の意図や制作当時のエピソード、岡崎氏の業績がどう引き継がれているかなどを、大変わかりやすく話されました。

この講演記録は、春に頒布の予定です。

聴講された方々の声

- ・ 今に響くメッセージを持った本物という番組制作の絞り方が素晴らしい。
 - ・ お話をお聞きして日本と中国の関係をより深く知ることが出来ました。
 - ・ 映像もあり制作関係者の解説を聞ける大変有意義な会でした。
 - ・ 中国青年を研修に招いた事業、日中の中学生の交流などこれからも大切だと思いました。私も必ず中国に行ってみたくと思いました。
 - ・ 「相手をよく知る」努力、「人の身になって考える」努力を少しでもしていきたい。
- 講演会に参加するのは2回目ですが参加するたびに岡崎嘉平太さんの本当の偉大さ、すばらしさを学ぶことができ、充実した時間を過ごせたと感謝しております。またの企画を楽しみにしております。



企画展「岡崎嘉平太 経済界での活躍」

10月5日(金)～11月30日(金) 開催

この企画展に、期間中1500名近い来館者がありました。岡崎氏が企業でつとめられた役職を示した年表(初公開)も好評で、写真パネルなどとあわせて約100点で構成しました。



会場の様子
(場所: 岡崎嘉平太記念館内)



周 総 理 の 肖 像
(全日空相談役室に掲げられていた)

日中友好に尽力したことで知られる岡崎氏ですがもう一つの側面である、経済界での活躍を多くの人に紹介できるよい機会となりました。

岡崎氏は、戦後、池貝鉄工や全日空をはじめとする数多くの企業を再建・設立されました。そして社長などの要職をつとめられ経営手腕を発揮、経団連などでも多くの役職をつとめられ、日本経済界に大きな足跡を遺されました。

展示品からは、岡崎氏が職員をはじめ人と人とのつながりを大切にし、幅広い交流があったことがうかがえました。そして、岡崎氏が、高い理念と強い信念のもと、企業の社会に果たす役割並びにアジアや世界の平和を考え、幅広い見識でもって、将来の日本を見据えて活躍されていたことを知ることができました。

生誕110周年記念「郷土出身の偉人 岡崎嘉平太氏の中国での足跡を訪ねる現地研修会」〔(財)岡山県郷土文化財団主催の現地研修会〕

10月23日(火)～28日(日)

岡崎氏のご長男・岡崎彬氏ご夫妻のご案内により、(財)岡山県郷土文化財団会員による、岡崎嘉平太氏の中国での足跡を訪ねる現地研修会が行われました。

5泊6日の日程で岡崎氏ゆかりの地、旧華興商業銀行やピアスパート(上海駐在時代に岡崎氏が住まっていた)、内山完造記念館(上海)、吉備真備記念碑園(西安)、中日友好協会(北京)などを巡りました。中日友好協会では、同協会副会長

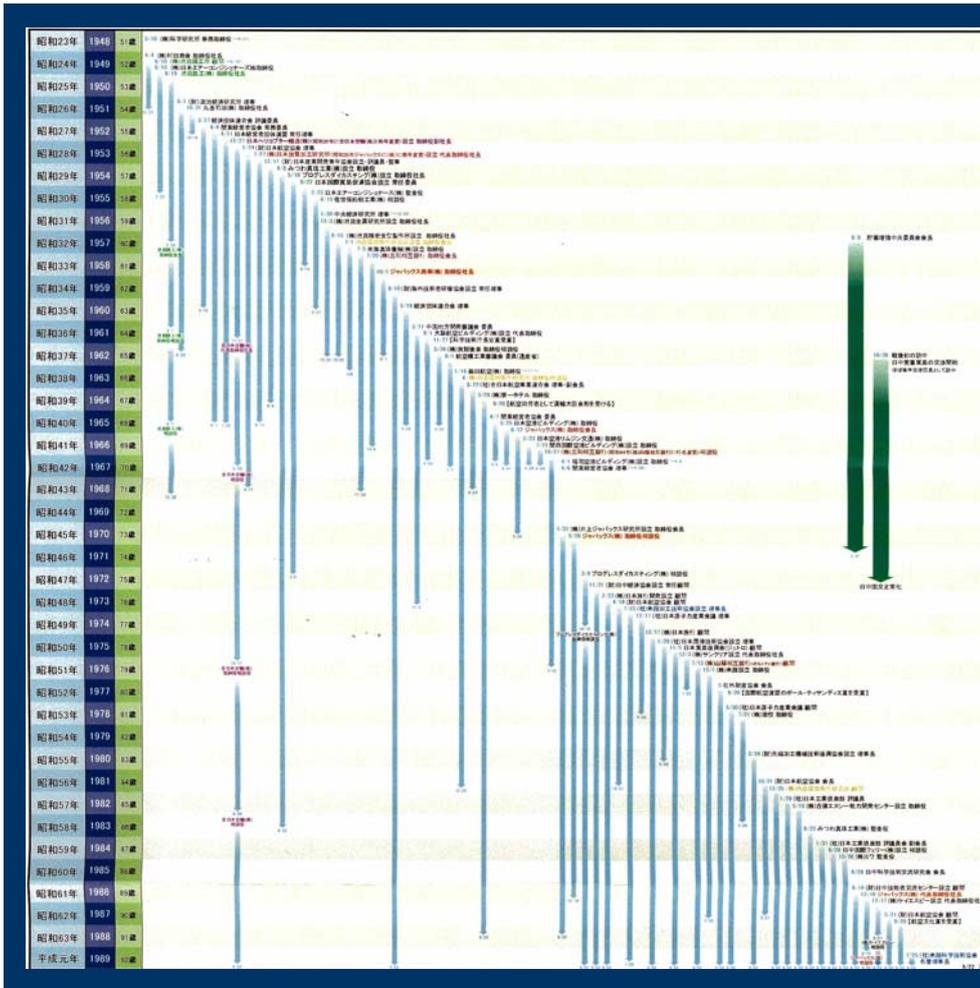


前列右より2番目から岡崎彬ご夫妻、王先生、田中常務、河田館長

王效賢先生のお話をお聴きしました。

王先生は、周恩来総理の通訳として、周総理と岡崎先生の親交を近くで見守られておられました。改めて先人の偉大さに想いを馳せ、一般の旅行では得難い貴重な経験をすることができました。

岡崎嘉平太さんものしりトピックス



ぜんにつくう そうだんやく
全日空で相談役をしてい
ころ かへいた
た頃の嘉平太さん

しゃしん おかざきかへいた きねんかん おこな きかくてん てんじ ひょう
この写真は、岡崎嘉平太記念館で行った、企画展で展示した表です。

じつぶつ おお たか はば おとな おとこ ひと せたけ
実物の大きさは、高さ・幅ともに170cmで、大人の男の人の背丈くらいありま

しゃしん ひょう かへいた
す。写真ではわかりにくいのですが、この表は、嘉平太さんが『いつからいつ

なに かいしゃ しゃちょう だいひょう
まで』『何という会社の社長や代表をしていたか』をまとめています。

わたし しょくいん かへいた しごと おお きかん なが
私たち職員も嘉平太さんのつとめた仕事の多さと期間の長さに

あらた おどろ じつぶつ きねんかん み き
改めて驚きました。ぜひ実物を記念館に見に来てください。



編集・発行：岡崎嘉平太記念館

〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内

TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066

ホームページ <http://www.kibicity.ne.jp/users/okazaki/>

Eメール okmh@kibicity.ne.jp